

第97回卒業式を挙

両学部185名が巣立つ

卒業証書No.一九三五九号に

日本歯科大学第九十七回卒業式(学位記授与式)は、三月中旬両学部において挙行し、一八五名の学士(歯学)を送り出した。あわせて日本歯科大学大学院第四十五回修了式が催され、二十一名の博士(歯学)に学位記が授与された。また、東京短期大学と新潟短期大学の卒業式も挙行された。

第45回大学院修了式を併催

生命歯学部

生命歯学部の部は、三月十九日に生命歯学部富士見ホールにおいて、大学院第四十五回修了式を併催して挙行された。定刻午前十時、米澤登庶務部長から開式が宣せられた。はじめにクラス主任の熊澤康雄教授より、平成

十九年度卒業生一〇五名の氏名が呼びあげられ、杉本裕也君が代表して、中原泉学長より栄えある卒業の証として学位記を授与された。

つづけて学術優秀賞十名、皆勤賞八名、精勤賞十四名、学術奨励賞十名、臨床実習優秀賞三名に対し、賞状等が授与さ

れた。

ついで大学院生命歯学研究科委員の古西清司教授より、生命歯学研究科博士課程修了生十五名の氏名が呼びあげられ、一人ひとりに研究の成果を証する博士(歯学)の学位記が授与された。

つぎに中原学長と小林義典大学院生命歯学研究科長が告辞(別掲)を述べた。

つづいて在学学生を代表して第五学年の栗城宏修君が先輩を送る送辞を述べ、卒業生を代表して白濁友子さん、大学院修了生を代表して山田裕之君が答辞を述べたのち、卒業生を代表して東儀季成君が、母校に記念品を寄

新潟生命歯学部

新潟生命歯学部の部は三月二十一日に新潟生命歯学部講堂において、大学院第四十五回修了式を併催して挙行された。定



点呼を受ける卒業生たち(生命歯学部)

東京短大

学長告辞

東京短期大学
学長 小口春久

本日の記念すべき日にあたり、諸君の一人一人が何を待たか。高校を終え本学に入学した当時の自分に比べて自問自答してもらいたい。

諸君は新しい知識や技術で一杯になっただろうか。よき師、よき人生の先輩にめぐり合うことができたか。多くの友人を得て友情で一杯になったか。文教地区富士見で心も体も豊かに成長したか。そして心優しくな

やかにバイタリティーに富んだ頼もしい若者になっただろうか。この地球上に多くの不幸な人々がいることに気づいただ

ろか。そして心優しくな

る。二十一世紀に活躍する諸君は、日本歯科大学東京短期大学で学んだことを誇りにしながら、積極的に自分の未来を設計し、人類の運命を開拓していくことを心から希望する。

祝辞
住友雅人附属病院院長
諸君が入学した時は病院は改修工事の最中で、学習の上で大変迷惑をお掛けした。お蔭さまで日本医療機能評価機構の評価認定を受けることができた。

附属病院では今、AI理論というのを普及させている。Appreciative Homeの頭文字をとってAIというわけだが、組織や自分の強いところを見つけて大いに伸ばそう、物事をポジティブに

刻午前十一時、大場憲業事務部長の司会により開式が宣せられた。

はじめにクラス主任の佐藤聡教授より、平成十九年度卒業生八十名の氏名が呼びあげられ、水野有佳里さんが代表して、中原泉学長より栄えある卒業の証として学位記を授与された。

つづけて学術優秀賞四名、皆勤賞十二名、精勤賞九名、学術奨励賞十名、臨床実習優秀賞一名に対し、賞状等が授与された。

ついで大学院新潟生命歯学研究科委員の下村浩巳教授より、新潟生命歯学研究科第四十五回修了生四名とマヒドン大学から

の留学生(後期修了生)二名の氏名が呼びあげられ、一人ひとりに研究の成果を証する博士(歯学)の学位記が授与された。

ついで研究発表優秀賞受賞の大窪泰弘君に、賞状が授与された。

つぎに中原学長と下村研究科長が告辞を述べた。ここで在学学生を代表して第五学年の笠間洋樹君が先輩を送る送辞を述べ、卒業生を代表して水野有佳里さん、大学院修了生を代表して千葉朋義君が答辞を述べた。

東京短期大学
東京短期大学の卒業式は、三月十八日午前十時

より生命歯学部富士見ホールにおいて挙行された。まず東京短期大学第一回卒業生となる第三十五回歯科衛生学卒業生五十七名と、第三十九回歯科工学卒業生の氏名が呼びあげられ、小口春久学長から栄えある卒業の証として、各学科の代表に短期大学士(歯科衛生学)と短期大学士(歯科工学)の学位記が授与された。

ついで第三十七回歯科技工士専攻科修了生十五名に修了証が授与された。あわせて、歯科衛生学卒業生全員に東京都訪問介護員修了証明書が授与された。

考えるということ、ある意味でおめでたい理論である。

歯科の世界は厳しいという話を聞いていると思うが、世の中全て厳しいのはみな同じだから、悩むことはないだろうというのが原点となる。

私は歯科の世界は夢があると思っている。それは人のQOLというクオリティオブライフに非常に直結した分野だからだ。まずモノが食べることができ、そして話することができる。審美的にも口元がきれいであれば、人前に出てコミュニケーションをとることができる。歯科はそれを支える仕事なのである。

世の中に誇れる仕事だと思っている。自分のもっている特性を大いに伸ばしていただきたい。(要旨)

つぎに小口学長が告辞を述べ、住友附属病院院長が祝辞を述べた。

新潟短期大学の卒業式は三月二十四日午前十一時より、新潟生命歯学部講堂で挙行された。まず歯科衛生学卒業生五十九名に、森田修己学長から短期大学士(歯科衛生学)の学位記とホームヘルパー二級課程の修了証書、専攻科修了生(二年コース)二名に修了証書が授与された。

ここで森田学長が告辞を述べ、ついで村上俊樹新潟生命歯学部学長が祝辞

を述べた。

ついで大学院生命歯学研究科委員の古西清司教授より、生命歯学研究科博士課程修了生十五名の氏名が呼びあげられ、一人ひとりに研究の成果を証する博士(歯学)の学位記が授与された。

つぎに中原学長と小林義典大学院生命歯学研究科長が告辞(別掲)を述べた。

つづいて在学学生を代表して第五学年の栗城宏修君が先輩を送る送辞を述べ、卒業生を代表して白濁友子さん、大学院修了生を代表して山田裕之君が答辞を述べたのち、卒業生を代表して東儀季成君が、母校に記念品を寄

贈した。

新潟生命歯学部の部は三月二十一日に新潟生命歯学部講堂において、大学院第四十五回修了式を併催して挙行された。定

刻午前十一時、大場憲業事務部長の司会により開式が宣せられた。

はじめにクラス主任の佐藤聡教授より、平成十九年度卒業生八十名の氏名が呼びあげられ、水野有佳里さんが代表して、中原泉学長より栄えある卒業の証として学位記を授与された。

つづけて学術優秀賞四名、皆勤賞十二名、精勤賞九名、学術奨励賞十名、臨床実習優秀賞一名に対し、賞状等が授与された。

ついで大学院新潟生命歯学研究科委員の下村浩巳教授より、新潟生命歯学研究科第四十五回修了生四名とマヒドン大学から

の留学生(後期修了生)二名の氏名が呼びあげられ、一人ひとりに研究の成果を証する博士(歯学)の学位記が授与された。

ついで研究発表優秀賞受賞の大窪泰弘君に、賞状が授与された。

つぎに中原学長と下村研究科長が告辞を述べた。ここで在学学生を代表して第五学年の笠間洋樹君が先輩を送る送辞を述べ、卒業生を代表して水野有佳里さん、大学院修了生を代表して千葉朋義君が答辞を述べた。

東京短期大学
東京短期大学の卒業式は、三月十八日午前十時

より生命歯学部富士見ホールにおいて挙行された。まず東京短期大学第一回卒業生となる第三十五回歯科衛生学卒業生五十七名と、第三十九回歯科工学卒業生の氏名が呼びあげられ、小口春久学長から栄えある卒業の証として、各学科の代表に短期大学士(歯科衛生学)と短期大学士(歯科工学)の学位記が授与された。

卒業答辞を述べる卒業生代表(生命歯学部)



学位記を授与される卒業生代表(新潟生命歯学部)

中原 泉 学長卒業告辞 (要旨)

諸君は小児歯科学の授業で最初に生える永久歯、いわゆる第一萌出永久歯は下顎の中切歯、1番だと教わったと思う。私は在学中に、最初に生える永久歯は下顎の第一大臼歯、6番だと習った。六歳ごろになって最初に萌出し、永久歯列の基礎となるキートンズで、六歳臼歯と呼ばれていた。一九三四年に岡本清先生が当時の小児を全国的に調査し、第一位萌出永久歯は下顎の6番であると報告した。

それから五十四年後、その報告によれば、第一位萌出永久歯は下顎の1番だった。半世紀で日本人の第一位萌出永久歯の順位が逆転したのである。近年、全体に歯の萌出がわずかながら早まっている。特に下顎の中切歯が男女ともに約五月ほど早くなり、男児で約一月半、女児で約一月、6番より早く萌出するようになった。このデータは歯科医師にとって非常に興味深い現象であり、私は、これを知ったときに興奮した。

では、外国人ではどうなんだろうと、約二〇〇カ国に質問状を出した。二年間ほどかかって五十カ国から回答を得た。その



卒業生にエールを送る中原学長(新潟生命歯学部)

の人口は合わせて四十二億人になり、第一位萌出永久歯が6番のタイプが八十二パーセント、そして1番のタイプが十八パーセントだった。この五十年以内に萌出順位が逆転したかについては、約二十・六パーセントが逆転していた。

どうして逆転現象がおこるのか不思議でならないので、その五十カ国のデータを詳細に分析した。例えば人種・民族的な差なのか、熱帯圏・寒帯圏という地域的な差なのか、あるいは発展途上国・先進国という環境的な差なのか。逆転した国、6番の国も1番の国も、世界中モザイクのようにバラバラだった。

昔から人体は絶えずこのような変化を繰り返しているのか、またある時期に限定して突発的に現

新潟短大 学長告辞

新潟短期大学 学長 森田修己

平成十六年度まで短期大学卒業生に対して、准学士の称号が授与されていたが、平成十七年七月に学校教育法が改正され、わが国における第五番目の学位である短期大学士が誕生し、短期大学卒業生に学位記が授与できるようになった。

現在、わが国では博士、修士、学士、専門職学位と五番目の短期大学士の五つが学位として位置づけられる現象なのか、非常に興味があり、私の中では未だに解決していない。私たちが学生時代に習った「六歳臼歯は歯列の基軸」というのは、全

人の肩に乗っていたからです」と言っている。一昨年度は創立百周年を迎え、記念行事として国際フォーラムが開催された。われわれも一堂に会してノーベル物理学賞受賞者の江崎玲於奈博士の講演を聞いたが、江崎先生は、ニュートンが言ったのと同じことを話された。フォーラムでは「限界への挑戦」というテーマで、新しいことをやるには先輩の肩に乗って遠くを見なさい、今ある知識や技術を学び、その改良や改善を試みるだけではない、その先に進む何かを見なさいと教えるのである。

皆さんは本学に入学して以来三年間、日本歯科大学の創立以来の建学の精神である「自主独立、自助努力」を受けて、本学の教育目標と自分の行為に責任をもち、人との関わりを大切に豊かな心を養うことに努め、今日を迎えた。

皆さんの中には、直ちに歯科衛生士として実社会へ出て職業に就かれる方もあり、さらに上級学校に進まれる方もいるだろうが、皆さんのすべてが自分のもてる個性を生かし、高度の教養と深い知識をもって自分のため

大学院研究科長修了告辞(要旨)

生命歯学研究科長 小林義典

激変した社会環境を背景に疾病構造と保健思想は大きく変化し、わが国を含めた先進国の医療経済は崩壊ともいえる厳しい状況にある。この大きな問題を打開する糸口として欧米先進国では統合医療の概念の必要性が提唱され、効を奏している。

存に不可欠な食物を噛んで食べる十分な咀嚼は小児の成長の促進、寝たきり者の覚醒効果や脳の損傷のリハビリテーション効果などの脳の活性化、リラクセス効果、気力やQOLの向上、肥満の抑制、食物の発がん性の除去、運動機能の向上、細菌感染の予防などにつながる。このことが明らかにされることから、咀嚼機能の回復とその維持を主な目的とする歯科は、今後の健康、医療、福祉で極めて重要かつ重大な役割を担い、また担わなくてはならない。この大きな未来がある領域で実動するために、歯科が重大な要とされる研究者、教育者、あるいは先進的な歯科医療を遂行できる高度専門医として、社会に寄与貢献すべく自信をもって一層邁進されることを大いに期待し告辞とする。

微細かつ持続的な咬合問題のような刺激による口腔感覚は、生体に多大な影響を及ぼすことも明らかにされているので、高度の歯科専門技術も必要だろう。その根底には人の痛みがわかり、人を慈しむ心がなくてはならない。

修了生諸君は自立的研究能力とその学識を備えた証として博士の学位を受領されたので、今後必要とされる研究者、教育者、あるいは先進的な歯科医療を遂行できる高度専門医として、社会に寄与貢献すべく自信をもって一層邁進されることを大いに期待し告辞とする。

新潟生命歯学研究科長 下村浩巳

万有引力やニュートン力学で知られているニュートンは、「私が人より遠くを見てきたのは、巨

けられている。学位と称号とはどこが違うのか、文部科学省では次のように説明している。

学位とは、学術の中心である大学が与えるもの、一定水準の教育を受け知識と能力を持つと認められた者に与えられるもの、そして授与された学位は国際的に通用するものなどといった。

学位と称号の価値には大きな差があり、とりわけ国際通用性に関しては圧倒的な違いがある。卒業生に与える学位が称号かによって、学校のステータスや教育課程の社会的評価が大きく違ってくる。

これは一例だが、学問や医療など、世の中で定説と言われているものを鵜呑みにしないほうがよく、根拠がないことがわかって下された。

また江崎先生は、研究においては感じる力、予知能力の必要性を指摘されている。私たち日本人は小学校の低学年の時代に算数の九九を教わった。毎日お経を唱えるように覚えたおかげで、例えば七や二十三、七十九という数字を聞いたときにすぐに素数だと感じることもできる。ものを感ずることが、自分のベースがどこにあるかということが非常に大事なのだ。

そして予知能力とは、私たちは研究や診療においてその結果を予想して行うことが多いが、予想

外の結果を得たとき、失敗として切り捨てるのではなく、説明できないまでも何かを予感しないということがある。

現在の科学は急速な進歩を遂げており、理論や技術の進歩には著しいものがある。卒業生、修了生諸君は自分で考え、自分の力で実行しなければならぬ。自らのベースをより高いものにし、先輩の肩に乗って遠くを見ることが、結果を吟味し、何かを予感することを身につけることに心がけて研究や診療に精進し、歯科界の発展に貢献されることを期待する。

今、再生医療は大変注目されており、歯科領域

は、自分が学ばなくてはならないことを自分自身で見つけ、勉強していかなければならない。

また医療に携わる人は歯科医学・歯科医療に関する知識や技能だけでなく、患者さんとのコミュニケーションが大切であり、患者さんの気持ちがかかる歯科衛生士になることを期待してお祝い言葉とした。

（要旨）



学生生活に別れを告げる……(東京短大)



一人ひとりに学位記が手渡された(新潟短大)

「家族のため、社会のため」に貢献されることを期待したい。

（要旨）

礎を勉強し、さらに新潟病院での研修を終え、今日、学位記を授与された。これからは実社会に出てこれまでに学んだ知識や技能を実践していくことになる。

新潟短期大学は生命歯学部と病院とが同じ敷地内にあるという恵まれた環境にあり、このような環境を十分に生かして勉強されてきた。これから

再生できることになれば、再生した象牙質を窩洞の中に覆って、その上に再生したエナメル質を充填することで、保存修復の治療システムが革新的に変わるだろう。

このように材料や技術はどんどん進歩し変化していく。諸君はその変化にきちんと対応していかなくてはならない。諸君が歯科医療に携わる限り、諸君の仕事は、生涯研修の上に成り立って継続していくことを自覚していただきたい。

終わりに、日本歯科大学第九十七回卒業生の永久番号を付けて、歯科界の荒波に乗り出す卒業生諸君の健闘を祈って学長告辞とする。

平成十九年度卒業生

大学院

新潟生命歯学研究科後期修士生二名は次の通り。

口腔材料開発工学 Wongsansam Amornrat Chatchayan Namath (甲第九〇号まで)

小児歯科学 庄内聡子 矯正学 大野由希 補綴学II 八田みゆり

第45回修士生

日本歯科大学大学院第四十五回修士生(生命歯学研究科)十五名は、次の通り。

全身関連臨床検査学 山脇敏裕 形態分析化学 大窪泰弘

歯周機能治療学 千葉朋義 (甲第九四九号まで)

学位記授与者 論文提出による学位記授与者十五名は、次の通り。

放射線学 奥村隼人 病理学 鳥居大祐 口腔外科学 玉澤学

衛生学 高橋誠之 歯周病学 織田洋武

矯正学 井口暁 放射線学 浅海利恵子

麻酔学 田崎博美 微生物学 山田裕之

歯周病学 石黒一美



メモリアルホールでの入会歓迎会(3月19日・生命歯学部)

卒業式終了後、新卒業生と父母、教職員を招き、恒例の校友会歯学会入会歓迎会が開催された。開宴に先立ち、光安一夫校友会会長は「卒業生の皆さんはこれから社会に出て、いろいろな出会いがあると思う。出会いを大切にして自分のネットワークを築いてもらいたい。そのネットワーク作りには、校友会を大いに活用していただきたい」と挨拶した。つづいて、宮川行男歯

大学

第97回卒業生

日本歯科大学第九十七回卒業生(新潟生命歯学部)八十名は、次の通り。

保存学II 相原英信 保存学I 遠藤春江

補綴学III 伊藤英俊 補綴学II 大石暢彦

放射線学 黒岩一 矯正歯科 黒木大雄

補綴学II 秋池成律 病理学 土井美麻子

補綴学I 八子誠一郎 総合診療科 大沼典男

麻酔学 大貫大介 補綴学I 佐藤三幸

補綴学II 能勢大尚

保存学II 太田泉 保存学I 奥山次郎

補綴学III 加藤幸子 補綴学II 川上未希

放射線学 木村尚美 矯正歯科 中村理江

補綴学II 倉品雄太 病理学 小林千夏

補綴学I 近藤道人 総合診療科 後藤有紀

麻酔学 大沼典男 補綴学I 佐藤三幸

校友会入会を歓迎

校友会会長は「卒業生とわれわれ教員とは、昨日まで教わる者、教える者の関係だったが、卒業を機に、ともに学び切磋琢磨しあう間柄となる。歯科の世界に身を置く限り、生涯学習が必要で、歯学会はその場を提供するので、生涯学習を続けていただきたい」と述べた。在学中の学生会活動などを顕彰し、生命歯学部では四十名、新潟生命歯学部では十名が、校友会表彰を受けた。



レストラン・スクエアで開催する(3月21日・新潟生命歯学部)

林田拓也 平沼隆光 藤本直也 星野恵

山田恵理 山田直也 渡部あかり 荒野義靖

大膳力也 倉谷世昭 矢島絵理子 山田恵理

高塚紘正 高野聡子 田上理恵 立原輝明

鈴木朋也 松尾陽介 甲田彩理沙 星野和子

伊藤幸太 野堀隆太郎 権里奈 猪俣徹

伊藤幸太 野堀隆太郎 権里奈 猪俣徹

平成20年度歯学会大会のお知らせ

平成20年度日本歯科大学歯学会総会・大会を下記のとおり開催します。会員の皆様の多数の参加をお待ちしています。

日時:平成20年6月7日(土) 13:45~17:00 会場:日本歯科大学生命歯学部九段ホール

シンポジウム「歯の再生:戦略、現状、予測」

- ◇シンポジスト: 1. 次世代歯科治療としての歯の再生に向けた戦略と展開 辻孝 (東京理科大学基礎工学部生物工学科/東京理科大学・文部科学省学術フロンティア再生工学研究センター) 2. ES細胞からの顎骨の再生 古江一楠田 美保 (独立行政法人医薬基盤研究所生物資源部細胞資源研究室/京都大学再生医科学研究所幹細胞医学研究センター細胞プロセッシング) 3. 培養歯胚上皮細胞を用いた歯の再生研究 本田 雅規 (日本大学歯学部解剖学教室II講座)

◇コメンテーター: 田畑 純 (東京医科歯科大学硬組織構造生物学分野)

◇座長:青葉 孝昭 ※歯学会総会は、12時30分から第一会議室で開催します。

大会長 青葉 孝昭 (生命歯学部病理学講座教授)

お問合せ:準備委員長 田谷雄二 (生命歯学部病理学講座) TEL 03-3261-8900 e-mail: patho-aoba@tokyo.ndu.ac.jp

鈴木優香 河野陽介 吉田和貴 山田浩平 山崎聡子 安田太郎 森岡昌子 村上智紀 三浦麻耶 松浦彰子 馬嶋秀多 千川 撰 福永里沙 日高聖子 花村伊織 波野宏美 野上以織 西川智子 中野昇 中野みどり 中野みどり 中野みどり 中野みどり 中野みどり

高塚紘正 高野聡子 田上理恵 立原輝明 田中 累 宮澤敦子 竹村 康 田中明子 田淵陽子 田中明子 張 家誠 東儀季成 鳥羽洋平 中根 宏 中平絵美 高野聡子 植松 優 立原輝明 中田智之 中田智之 中田智之 中田智之 中田智之

高野聡子 田中明子 白濁友子 植松 優 立原輝明 中田智之 中田智之 中田智之 中田智之 中田智之

高野聡子 田中明子 白濁友子 植松 優 立原輝明 中田智之 中田智之 中田智之 中田智之 中田智之

学術奨励生

平成十九年度日本歯科大学学術奨励生(二二五名)は、次の通り。

一年II小口莉奈 横井 希 軍司さおり 肥田智香子

一年II金子陽祐 内沼茂樹 田田翠美 大竹由佳子

高野聡子 田中明子 白濁友子 植松 優 立原輝明 中田智之 中田智之 中田智之 中田智之 中田智之